また、主な資産の耐用年数は以下のとおりである。

建物	６年～50年
構築物	10年～60年
工具器具備品	２年～10年
車両運搬具	５年～６年

特定の償却資産（国立大学法人会計基準第84）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除して表示している。

⑵　無形固定資産

定額法を採用している。

なお、法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間（５年）に基づいている。

３．引当金の計上基準

⑴　賞与引当金及び見積額

運営費交付金で財源措置されない教職員の賞与に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を賞与引当金として計上している。なお、国立大学法人等業務実施コスト計算書における引当外賞与増加見積額は、基準第85第２項に基づき計算された賞与に係る賞与引当金の当期増加額を計上している。

⑵　退職給付に係る引当金及び見積額

運営費交付金で財源措置されない教職員の退職給付に備えるため、当該事業年度末における自己都合要支給額を退職給付引当金として計上している。また、運営費交付金で財源措置される教職員の退職一時金については、退職給付に係る引当金は計上していない。なお、国立大学法人等業務実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、基準第86第４項に基づき計算された退職一時金に係る退職給付引当金の当期増加額を計上している。

⑶　徴収不能引当金及び貸倒引当金

将来の貸倒による損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については、個別の債権の回収可能性を検討して回収不能見込額を計上している。

なお、一般債権については過去の貸倒実績がないため計上していない。

４．有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的債券　償却原価法（定額法）

５．リース取引の会計処理

リース料総額が３百万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

６．たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品　最終仕入原価法

７．国立大学法人等業務実施コスト計算書における機会費用の計算方法

⑴　国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計算方法近隣の地代や賃借料を参考に計算している。

⑵　政府出資等の機会費用の計算方法

10年利付国債の平成24年３月30日利回り終値を参考に0.985％で計算している。

８．消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税込方式による。

Ⅱ．「貸借対照表」注記

当期の運営費交付金より財源措置が手当されない引当外賞与見積額	448,747,922円
運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額	7,202,397,292円

Ⅲ．「キャッシュ・フロー計算書」注記

⑴　資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	3,442,117,960円
資金期末残高	3,442,117,960円

⑵　重要な非資金取引

①　寄附による資産の増加

工具器具備品	95,594,448円
図書	5,479,638円
車両運搬具	41,900,000円
計	142,974,086円

②　ファイナンス・リースによる資産の取得

工具器具備品	457,575,936円
ソフトウェア	6,405,000円
計	463,980,936円

Ⅳ．「国立大学法人等業務実施コスト計算書」注記

国及び地方公共団体からの出向者にかかる退職給付当期増加見積額

該当者員数　95名

上記該当者に係る退職給付当期増加見積額	91,865,833円

Ⅴ．金融商品に関する注記

１．金融商品の状況に関する事項

資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定している。

資金調達については一部の設備投資については借入金及びリースにより行っている。

資金運用にあたっては国立大学法人法第35条が準用する独立行政法人通則法第47条の規定に基づき、国債等を保有しており株式等は保有していない。

借入金の使途は学生寮整備事業等のための資金であり、主務大臣により認可された資金計画に従って、資金調達を行っている。

２．金融商品の時価等に関する事項

平成24年３月31日（当期の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりである。　単位：円

	貸借対照表計上額	時価	差額
⑴投資有価証券	150,165,913	151,695,000	1,529,087
⑵現金及び預金	3,442,117,960	3,442,117,960	0
⑶有価証券	100,048,096	100,815,000	766,904

㈱　金融商品の時価の算定方法

⑴　投資有価証券及び⑶有価証券

これらの時価について、取引所の価格による。

⑵　現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額による。

長期貸付金、未収入金、長期借入金及びリース債務については保有している金融商品の重要性が乏しいため、注記を省略している。